

平成 26 年 10 月 30 日

東海旅客鉄道株式会社

平成 27 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会 主な Q & A

- Q. 足元の東海道新幹線の輸送量について、10 月は二度の台風の影響を受けたという説明があったが、台風の影響を除いた輸送量の実力をどう見ているか。
- A. 前年も 10 月は台風が来ていたので、昨日までの実績で対前年 103%というのは実力に対して妥当な水準と考えています。上半期は対前年 102%で、現時点でもその状況が継続しているという認識です。企業を中心に堅調な景気を反映していると考えています。
- Q. 訪日外国人の増加が新幹線の運輸収入増に寄与しているという新聞記事が出ていたが実態はどうか。
- A. どれだけ増えたのか、量的にお示しすることは難しいところですが、新幹線車内を見ると、外国人のお客が増えたという感覚はあります。ただ、新幹線の運輸収入全体に占める割合は小さいことから、記事にあったように、訪日外国人の増加が新幹線の運輸収入増に大きく寄与している、というほどの印象はありません。
- Q. 東海道新幹線開業 50 周年記念商品が与えた影響は。
- A. 新幹線開業 50 周年記念商品は、一定の押上げ効果はありましたが、通期の運輸収入全体への影響はそれほど大きなものではないと考えています。運輸収入への効果もさることながら、50 周年を迎えた東海道新幹線の位置付けを改めて広く皆様にご理解を頂いたことが重要と考えています。
- Q. 今期は中央新幹線関連の設備投資を 230 億円で予定しているが、事業説明会が現時点で始まった段階なので、今期は 230 億円で達しないのではないかと。
- A. 230 億円は認可後に要する投資額であるため、これから徐々に執行していくこととなります。現段階で予定を大きく変える状況にはないと考えています。

Q. 事業説明会で品川駅は今年度中に発注手続に入るという話があったが、これが中央新幹線工事の最初の発注となるか。また金額の規模感は。

A. 長期間の工期が必要となる品川・名古屋のターミナル駅は、工事の手順が非常に多いので、早目に準備を整えて、工事を開始させなくてはいけないと思っていますが、「どこが最初か」ということを言える段階ではありません。規模感等については、今後の契約にも影響するため、今後も公表は控えさせていただきます。

Q. 当面キャッシュポジションを少し上げつつ、2017 年度までは長期債務を縮減し、2018 年度以降に新規借入が増えていくとの想定と理解しているがどうか。

A. 将来の工事に備えて、少しキャッシュポジションを上げていきたいと考えている一方で、長期債務の縮減により経営体力を強化し、様々な状況に柔軟に対処できるようにしておくことも重要と考えています。2027 年の開業までの間、いつどれだけの資金が必要となるかは工事の状況によるため、現時点では何とも言えませんが、金利動向等も見ながら、バランスを取りつつ対応していく考えです。

以 上